

I D 問答～新たに始まった、我(ら?)が精神の放浪?!～

作：I & D

②⑦ 巡り巡って?結局は、「統一性と多様性」の問題(テーマ)に戻ってきてしまった?!

I : 突然ですが、今、「バーバパパのがっこう」とかというような、「バーバパパ」を主人公とした絵本が、ネット上で話題になっていますよ!最初、彼?は、「おばあちゃんパパ?」かとも思ったのですが、フランスとアメリカの絵本作家夫妻の絵本に登場するキャラクターの名前だそうです!

D : それで、どうしたのですか?

I : 実は、私は、大学院時代(H大学)に、研究テーマを、「西ドイツ(当時)における『文化連邦主義』に関する一考察」としていたのですが、そこでの問題意識は、「教育制度における『統一性』と『多様性』の相剋」を、いかに解決していけばよいのかということでした(前にも書いたかな?確かそうである?)!詳しいことは、ここでは紹介できませんが、その絵本が、今流行りの?「選択の多様性」をモチーフとするもので、教育界を含めて、多くの人の共感を得ているようなのです!

D : ドイツは(も?)、確か「連邦国家」であり、教育制度は、それぞれの「邦/州(Land→state)」の主権に属するもので、教育や文化、すなわち人間の精神生活に関わる部分は、それぞれの邦(州)が、各々の自由と責任の名において実行していく!それによって、「多様性」を保持?していく?!

I : まさしくその通りだったのですが(その後の推移は、詳しくは分かりませんが、今も基本的には、そうした基本原則は変わっていない?)、そうした多様性は、一面では、非常に大切な要素かと思えます!

D : あなたは、若い時から?、そうした難しいことを考えるのが、好きだったのですね?しかし、「教育」というのは、そういう難しいところもあると思いますが、親とか、学校とか、教師とかが、将来を担う子ども達のために(その意味で「宝」?)、身を粉にして面倒をみる?!したがって、教授法とか、それを導く教育原理とか、そうしたことを学ぶ(研究する)のが「教育学」だった?!

I : 確かにそうかもしれませんが、私が入った(正確には入れてもらった?)研究室が、「比較教育学」という、諸外国の教育事情や教育制度を研究するところでした!だから、どこかの国を選ばなければいけなかった!しかし、最初は、この国!という国はなく、学部時代の語学履修の関係で、英語圏か、ドイツ語圏しかなかったのです(当然、当該国の言葉が分からなければ話にならない!)!それで、アンチ英語的な理由で(他の、多くの人が英語圏の国を選択していた?)、しかも、マイナー?な西ドイツ(当時のH大学では、教育学と言えば、「東ドイツ」が主流だった?)にしたのです!

D : やはりあなたは、この世界に入る時から変わり者だったのですね(ある意味可哀想?)?!とは言え、それだけでは、その研究テーマの選択理由にはなりませんよね?!

I : もちろんそうですが、私は、一方で、学部時代に、多少?社会科学にも関心を持ち(専攻分野は、まったく違ったところでしたが、当時のある理由?から!)、社会制度のあり方みたいなものを考えてもいたので、(西)ドイツの「文化連邦主義」を採り上げたということになります?!

D : 要は、そこには、「(教育)制度の統一性と多様性の問題」があり(人間社会は、永遠に?この問題に悩まされる?!)、我が国の教育制度を考える上で、一つの参考になる?そういうことですね?どちらかが強すぎたら、社会全体がおかしくなる(硬直 or 拡散)?!そこに、バランスが必要となる?!

I : 思考の流れとしては、確かにそういうことなのですが、しかし、その研究(テーマ)も、現実の就職とか、置かれている状況(立場)とかの関係で、まったく実を上げることはできませんでした!

D : それは残念ですが、しかし、そういうことは、ごく一部の人を除いて、他の多くの人の、普通の人生模様かと思えます!とは言え、今般、あなたの、あの時の研究テーマが、巡り巡って戻ってきた?!そういうことにもなりませんか?もし、そうであれば、あなたの、あの若い時の問題意識(直感?)は、大いなる意味を潜ませていた?そうとも言えますよ?! (つづく)